

(5) 菌類概説

(ア) 埼玉県における菌類調査の現状

菌類は、動物、植物と並ぶ大きなグループであり、日本では約1万6千種、世界では約14万種が知られている (Lücking *et al.*, 2020)。しかし、菌類の多くは微小な菌糸の状態で見られ、自然界に存在しており、同定や分類が困難であるため、菌類の多様性については他の分類群と比べて解明が進んでいない状況にある。地球上の菌類の総種数は150万～990万種程度になるという推定もあり (細矢・大村, 2008)、記載されている種よりも未記載種の方がはるかに多い分類群である。

埼玉県内には、低地の暖温帯から亜高山の亜寒帯まで、気候や土地利用に応じて様々な環境が存在しており、それぞれの環境に応じて多様な菌類が分布していると思われる。県内に分布する菌類については、『埼玉県植物誌』『1998年版埼玉県植物誌』でまとめられたほか、埼玉きのこ研究会などの在野の方々の手により徐々に明らかにされてきている。しかしながら、『1998年版埼玉県植物誌』では530種(亜種・変種・品種を含む)しか報告されておらず、菌類相の解明にはほど遠く、さらにカビや植物病原菌などの微小な菌類についてはほとんど明らかになっていないのが現状である。

(イ) 今回調査と評価について

今回のレッドデータブックでは、従来と同様に、大型の子実体、いわゆる「きのこ」をつくる菌類を対象に調査を実施した。近年発行された他県のレッドデータブックではカビや植物病原菌なども含めて菌類を幅広く対象としたものもあり、本来はこうしたものも含めて評価を行うことが望ましいが、本県では調査の蓄積がほとんどなく、調査体制の強化も図れなかったため、現時点では絶滅可能性の評価や減少要因の推定が困難であると判断し、これらは調査対象から除外した。

調査は現地調査を中心としたが、子実体が短期間しか確認できない種が多いため、併せて標本記録と文献情報も重視し、できるだけ多くの情報を集めることとした。標本情報は県立自然の博物館収蔵標本のほか、サイエンスミュージアムネット (国立科学博物館, Online) の情報も参照した。また、文献については、菌類は同定が困難なものが多く、信頼性に欠ける情報も散見されることから、市町村史と埼玉きのこ研究会会誌『いっぽん』等に絞って調査を実施した。今後、信頼性の高い情報をより広く集めることができれば、評価も変化する可能性がある。

なお、学名については Index fungorum (Index Fungorum Partnership, Online) を参照し、上位分類については大作ら (2016) を参考にしながら分類順に記載した。

前述のとおり、菌類は自然界に張り巡らしている微小な菌糸がいわば「本体」であり、子実体が確認できないことが存在していないことには相当せず、生育状況の把握が難しい。さらに、本県では菌類の調査の蓄積が少なく、現時点で絶滅可能性や減少要因を評価することは困難である。しかしながら、人間の活動や他の生物との関係、気候変動等により県内の自然環境が変化していることは紛れもない事実であり、これまで県内で確認されてきた菌類の中には、環境の変化により生育適地が減少し、絶滅が危惧されるものも存在する。そのため、今回は県内で変化の著しい環境や限られた環境に依存する菌類を中心として絶滅危惧種の選定を行うとともに、生育環境に大きな影響を与える要因や食用菌としての採取圧等を考慮してランクを検討した。なお、今回は十分な調査体制が確保できず、ランクを変更するに足るデータを得られたものがほとんどなかったため、基本的には前回と同じランクとした。また、調査を進める中で、オオモミタケやアシボソクリタケ、オオダイアシベニイグチのように確実な生育記録が確認できなかった種も存在した。こうした種についてはすべてランクを情報不足 (DD) とし、今後の調査の進展を待つこととした。

(ウ) 埼玉県に分布する菌類

県内の亜高山帯にはシラビソ・オオシラビソ林やコメツガ林などの針葉樹林が成立し、オ

オキノボリイグチなどの菌根菌が確認されているが、こうした環境は奥秩父山地の稜線沿いに限られている。ほぼ全域が保護地域となっており、大きな土地利用の変化や急激な環境の変化はないが、気候の変化等によりやや乾燥化傾向にあり、これが発生状況に影響を与えている可能性がある。また、調査の目が行き届かず、十分な情報が得られていない地域でもあり、情報不足（DD）の種が多い。

奥秩父山地や外秩父山地、上武山地などの山地上部にはミズナラやイヌブナ、シオジ・サワグルミ、カエデ類などからなる落葉広葉樹林が成立する。生育環境をブナ林に依存するムカシオオミダレタケやクチキトサカタケなどが確認されているが、県内にはブナ林が少なく、発生環境が限定的である。ムカシオオミダレタケは今回調査で文献記録を確認できたが、クチキトサカタケは確認できなかった。秩父山地だけでなく、外秩父山地に成立する比較的ブナの多い林等における調査の進展が期待される。また、カラマツ林に発生するウツロベニハナイグチやゴヨウマツ類の樹下に発生するゴヨウイグチやベニハナイグチも、依存する樹木が県内に少ないため発生が限られている。

県内の低地から山地下部にかけては、人の暮らしにも近く、コナラやクヌギなどの落葉広葉樹林（いわゆる「雑木林」）、モミ・ツガ林、アカマツ林、アラカシ林などの二次林が広く成立している。こうした環境は生物の多様性が高い一方で、雑木林の放置やマツノザイセンチュウによるマツ枯れなどによる環境の変化、メガソーラー等の開発行為等により徐々に林内の環境が悪化してきている。また、シャカシメジやムレオオフウセンタケ、コウタケのように食用菌として採取されることが減少要因となっているものも多い。マツタケなどの特に人気の高い食用菌は、伝聞情報を得られることがあるが、具体的な産地情報を得ることが難しく、正確な分布状況が把握できていない可能性がある。加えて、2019年に初めて県内でカシノナガキクイムシが確認されて以降、県内ではここ1～2年で急激にナラ枯れが進行している。現時点で菌類への影響は確認できていないが、ヒメベニテングタケやブドウニガイグチ、クリイロニガイグチ、ルリハツタケなどのブナ科の広葉樹林と共生する菌根菌に対して、今後短期間のうちに大きな影響を与えるものと思われる。なお、ヤシャイグチやクリイロイグチモドキなど、調査の進展により新たな産地が複数発見された種も存在する。

これまで述べてきたように、本県における菌類の調査は十分に進んでいない。絶滅可能性や減少要因について、より正確な判断ができるようにするためにも、今回選定した絶滅危惧種だけでなく、県内の菌類全般の分布調査を今後も継続していくことが望まれる。

(エ) 引用・参考文献

- 出川洋介・折原貴道, 2022. 菌類. 神奈川県レッドデータブック 2022 植物編, 神奈川県. pp. 380-425, 神奈川県, 神奈川.
- 細矢 剛・大村嘉人, 2008. 菌類はどれくらいいるか, 菌類のふしぎ 形とはたらきの驚異の多様性, pp. 154-159, 東海大学出版会, 神奈川.
- 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄編著, 2011. 増補改訂新版 山溪カラー名鑑 日本のきのこ, 山と溪谷社, 東京.
- Index Fungorum Partnership, Index fungorum. Online Available from internet <http://www.indexfungorum.org/> (accessed 2023-11-28)
- 印東弘玄・清水大典・ト沢美久, 1962. 菌類. 埼玉県植物誌, pp. 252-284, 埼玉県教育委員会, 埼玉.
- 糟谷大河, 2020. 菌類. 茨城県における絶滅の恐れのある野生生物 蘇苔類・藻類・地衣類・菌類編 2020 年版 (茨城県版レッドデータブック), pp. 110-140, 茨城県県民生活環境部自然環境課・茨城県生物多様性センター, 茨城.
- かわごえ環境ネット キノコ編集委員会, 2018. 川越の自然を訪ねて きのこと編
- 小林徳男, 1998. 埼玉の菌類. 1998 年版埼玉県植物誌, pp. 713-730, 埼玉県教育委員会, 埼玉.
- 国立科学博物館, サイエンスミュージアムネット. Online Available from internet <https://science-net.kahaku.go.jp/> (accessed 2023-11-30)

- Lücking, R., Aime, M. C., Robbertse, B., Miller, A. N., Ariyawansa, H. A., Aoki, T., ... & Schoch, C. L., 2020. Unambiguous identification of fungi: where do we stand and how accurate and precise is fungal DNA barcoding?. IMA fungus, 11 (1), 1-32.
- 日本冬虫夏草の会編著, 2014. 冬虫夏草生態図鑑, 誠文堂新光社, 東京.
- 大作晃一・吹春俊光・吹春公子, 2016. おいしいきのこ毒きのこハンディ図鑑, 10pp, 主婦の友社, 東京
- 埼玉県環境部自然環境課編, 2012. 埼玉県の希少野生生物 埼玉県レッドデータブック 2011 植物編. 埼玉県環境部自然環境課, 埼玉.
- 埼玉きのこ研究会, 1986-2020. 埼玉きのこ研究会会誌 いっぽん, No.1-No.33.
- 埼玉県高等学校生物研究会, 1959-2001. 埼玉生物, 第1号 - 第41号.
- 清水大典, 1994. 原色 冬虫夏草図鑑, 誠文堂新光社, 東京.
- 佐々木廣海・木下晃彦・奈良一秀, 2016. 地下生菌識別図鑑, 誠文堂新光社, 東京.
- ト沢美久, 2008. 第6節 菌類 (キノコ類). 越生町史自然史編 越生の自然, pp. 368-388, 越生町, 埼玉.
- XU, F., LOBUGLIO, K. F. & PFISTER, D. H., 2019. On the co-occurrence of species of *Wynnea* (Ascomycota, Pezizales, Sarcoscyphaceae) and *Armillaria* (Basidiomycota, Agaricales, Physalacriaceae). Fungal systematics and evolution, 4 (1): 1-12.

5001

テングタケ科

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 VU

2011 VU
1998 VU

全国カテゴリ

2020 なし

〔和名〕

ヒメベニテングタケ

〔学名〕

Amanita rubrovolvata S. Imai

【評価所見】

今回の現地調査では1件の報告があったほか、2018年・2022年の標本記録と2011年の文献記録を確認した。発生は確認したが量的には少なく、ナラ枯れにより生育環境が急激に悪化する可能性がある。

【県内生育状況】

外生菌根菌。夏から秋、ブナ科の広葉樹林やカラマツ林の地上に子実体を形成する。

【特記事項】

標本：秩父市2004年・2018年、小鹿野町2003年、飯能市2022年（SMNH）横瀬町の記録は文献記録である。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○		○					

秩父市、小鹿野町、飯能市、横瀬町

5002

テングタケ科

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 NT

2011 NT
1998 NT

全国カテゴリ

2020 なし

〔和名〕

マツカサモドキ

〔学名〕

Amanita strobiliformis (Paulet ex Vittad.) Bertill.

【評価所見】

今回の調査では確認できず、伝聞情報も得ることができなかった。マツ枯れや自然遷移により生育環境が悪化している可能性がある。

【県内生育状況】

マツの樹下で砂地に子実体を形成する。

【特記事項】

標本：横瀬町1991年、滑川町1997年（SMNH）

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○			○				

横瀬町、滑川町

5003

オオモミタケ科

埼玉カテゴリ

2024 DD
2005 NT

2011 NT
1998 NT

全国カテゴリ

2020 なし

〔和名〕

オオモミタケ

〔学名〕

Catathelasma imperiale (P. Karst.) Singer

【評価所見】

今回の調査では確認できなかった。もともと発生量が少ないうえに、亜高山帯での調査が十分でないため評価が難しい。生育環境の自然遷移による減少に加え、食用菌として採取されることによる減少が危惧される。

【県内生育状況】

外生菌根菌。秋にオオシラビソ、ウラジロモミなどの針葉樹林の地上に子実体を形成する。

【特記事項】

これまで秩父で採取された伝聞があるとされてきたが、根拠が不明である。奥秩父のシラビソ・オオシラビソ林に現存する可能性があるが、食用菌のため詳細な産地情報が不足している。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

（秩父市）

5004

オオモミタケ科

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 VU

2011 VU
1998 VU

全国カテゴリ

2020 なし

〔和名〕

モミタケ

〔学名〕

Catathelasma ventricosum (Peck) Singer

【評価所見】

今回の現地調査では確認できなかったが、2017年に横瀬町で採取された標本が自然の博物館に保管されている。生育環境の自然遷移による減少に加え、食用菌として採取されることによる現象が危惧される。

【県内生育状況】

外生菌根菌。初秋にモミなどの針葉樹林の地上に子実体を形成する。

【特記事項】

標本：横瀬町2017年、越生町2010年（SMNH）雲取山（秩父市）での記録があるとされているが情報源が確認できなかった。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○			○			

横瀬町、越生町、（秩父市）

5005

シロソウメンタケ科

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 VU

2011 VU
1998 VU

全国カテゴリ

2020 なし

〔和名〕

ベニセンコウタケ

〔学名〕

Clavaria rosea Dalman

【評価所見】

今回の調査では4件の報告があり、継続して確認された産地に加え、新たな産地（滑川町）も発見された。草地が少なくなっており、芝生の発生地も宅地造成や踏みつけにより土壌が攪乱されている。

【県内生育状況】

初夏から秋にかけて、やや湿り気のある草地や芝生の地上に子実体を形成し、単生あるいは東生状に発生する。

【特記事項】

標本：小川町1992年、蓮田市1993年、さいたま市2017年・2019年、川越市2020年（SMNH）秩父市の記録は文献記録である。ベニナギナタケと混同しやすい。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○		○		○	○	

小川町、蓮田市、さいたま市、川越市、滑川町、秩父市

5006 フウセンタケ科

(和名) ムレオオフウセンタケ

(学名) *Cortinarius praestans* (Cordier) Gillet

埼玉カテゴリー

2024 NT
2005 NT2011 NT
1998 NT

全国カテゴリー

2020 なし

【評価所見】 今回の調査では2件の報告があった。これまで生育適地の減少と、食用菌として採取されることによる生育環境の悪化が危惧されてきたが、ナラ枯れによってさらに生育環境が急激に悪化する可能性がある。

【県内生育状況】 外生菌根菌。秋に広葉樹を中心とした林の地上に子実体を形成する。石灰岩地帯に多いとする文献が多いが、県内では石灰岩地帯に限らず広葉樹林で広く記録されている。

【特記事項】 標本：東秩父村 2016・2022年、横瀬町 1983年、

長瀬町 1985年、皆野町 1983年・1985年・1986年・1987年、寄居町 1993年、秩父市 1986年、越生町 2010年 (SMNH) 越生町の産地は前回調査で新たに確認された。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	○	○	○	○			

秩父市、長瀬町、東秩父村、皆野町、横瀬町、寄居町、越生町

5007 イッポンシメジ科

(和名) イッポンシメジ

(学名) *Rhodophyllus sinuatus* (Bull.) Quél.

埼玉カテゴリー

2024 NT
2005 NT2011 NT
1998 NT

全国カテゴリー

2020 なし

【評価所見】 今回の調査では確認できなかった。雑木林の放置や、ナラ枯れによる生育環境の悪化が懸念される。また、同定の難しさから発見されていない可能性がある。

【県内生育状況】 外生菌根菌。夏から秋にかけてブナ科の広葉樹林の地上に子実体を形成する。

【特記事項】 標本：皆野町 1986年・1996年、秩父市 1985年、滑川町 2010年 (SMNH) 越生町、横瀬町、寄居町、小川町の記録は文献記録である。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	○	○	○				

秩父市、皆野町、横瀬町、越生町、滑川町、寄居町、小川町

5008 ヒメノガステル科

(和名) アシボソクリタケ

(学名) *Naematoloma dispersum* (Quél.) P. Karst.

埼玉カテゴリー

2024 DD
2005 VU2011 DD
1998 VU

全国カテゴリー

2020 なし

【評価所見】 今回の調査では確認できなかった。針葉樹林の林内環境が悪化している事が懸念される。

【県内生育状況】 腐生菌。夏から秋にかけて、深山の針葉樹腐朽株やその周辺に子実体を形成する。

【特記事項】 前回は飯能市に分布するとされたが、根拠を確認できなかった。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

(飯能市)

5009 シメジ科

(和名) シャカシメジ

(学名) *Lyophyllum fumosum* (Pers.) P.D. Orton

埼玉カテゴリー

2024 VU
2005 VU2011 VU
1998 VU

全国カテゴリー

2020 なし

【評価所見】 今回の現地調査では2件の報告があった。これまでも生育適地の減少と、食用菌として採取されることによる減少が危惧されてきたが、ナラ枯れにより生育環境が急激に悪化している可能性がある。

【県内生育状況】 外生菌根菌。秋にコナラやアカマツの混成林の地上に子実体を形成する。ナラ枯れの拡大により生育環境が急激に悪化している。

【特記事項】 標本：寄居町 1985年、川越市 2017年、東秩父

村 2016年・2022年 (SMNH) 長瀬町・秩父市、小川町の記録は文献記録である。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○	○			○		

川越市、長瀬町、寄居町、東秩父村、秩父市、小川町

5010 シメジ科

(和名) ホンシメジ

(学名) *Lyophyllum shimeji* (Kawam.) Hongo

埼玉カテゴリー

2024 VU
2005 VU2011 VU
1998 VU

全国カテゴリー

2020 なし

【評価所見】 今回の調査では確認できず、伝聞情報も得ることができなかった。自然遷移のほか、ナラ枯れにより生育環境が急激に悪化している可能性がある。

【県内生育状況】 腐生菌。秋にコナラなどの広葉樹林やアカマツとの混成林の地上に発生する。

【特記事項】 標本：ふじみ野市 1984年、皆野町 1988・1991年 (SMNH) 長瀬町、秩父市、川越市、横瀬町の記録は文献記録である。前回調査では本庄市に分布するとされていたが根

拠が確認できなかった。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○				○		

ふじみ野市、長瀬町、皆野町、秩父市、川越市、横瀬町、(本庄市)

5011

ウラボニガサ科

(和名)

ヒョウモンウラボニガサ

(学名)

Pluteus pantherinus Courtec. & M. Uchida

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 NT

2011 NT
1998 NT

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】

前回調査では滑川町で確認されたとされているが、県内の発生例は少なく、今回の調査では確認できなかった。関東以北が分布域と考えられており、南限に近いと考えられる。

【県内生育状況】

初夏から秋にかけて、広葉樹の腐朽材上に子実体を形成する。

【特記事項】

標本：1994年長瀬町（SMNH）越生町の記録は文献記録、滑川町の記録は前回調査の際の記録である。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○	○					

長瀬町、越生町、滑川町

5012

キシメジ科

(和名)

オオイチョウタケ

(学名)

Leucopaxillus giganteus (Sowerby) Singer

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 NT

2011 NT
1998 NT

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】

今回の現地調査では3件の報告があり、飯能市で新たに分布が確認された。生育環境が悪化傾向にあり、食用菌として採取されることによる減少も危惧される。

【県内生育状況】

腐生菌。夏から秋にかけて林内や庭園、竹林の腐植質の土壌に群生あるいは散生する。

【特記事項】

標本：長瀬町1983年・1987年、皆野町1994年・1997年・2000年、横瀬町2017年、熊谷市採取年不明（SMNH）秩父市、飯能市の記録は文献記録である。今後分類学的検討が必要になる可能性がある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	○	○			○		

横瀬町、皆野町、長瀬町、熊谷市、飯能市、秩父市

5013

キシメジ科

(和名)

マツタケ

(学名)

Tricholoma matsutake (S. Ito & S. Imai) Singer

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 NT

2011 NT
1998 NT

全国カテゴリ

2020 NT

【評価所見】

秩父市以外の丘陵・山地では文献や伝聞記録が残っているが、生育適地がマツ枯れや自然遷移により減少しており、近年は記録がない。秩父山地のアカマツ樹下や亜高山帯のシラビソ・オオシラビソ林では継続して確認されている。

【県内生育状況】

外生菌根菌。アカマツやコメツガ、シラビソ、オオシラビソなどマツ科の樹木が多く、腐植質の少ない森林に生育し、秋に子実体を形成する。

【特記事項】

食用菌のため情報が得にくい。小川町、寄居町、越生町、毛呂山町は文献記録である。旧版植物誌ではこの他にさいたま市、小鹿野町に産するとされており、かつては県内に広く発生していたものと思われる。標本：秩父市2022年（SMNH）

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○		○	○	○	○		

秩父市、小川町、寄居町、越生町、毛呂山町、熊谷市

5014

イグチ科

(和名)

ヤシャイグチ

(学名)

Austroboletus fusisporus (Kawam, ex Imazeki & Hongo) Wolfe

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 NT

2011 NT
1998 NT

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】

今回の調査では3件の報告があり、いずれも新産地であった。前回調査以降に丘陵や平地林での調査が進んだことから発見例は増加しているが、元々発生が少なく、発生適地は土地造成などにより減少傾向にあると思われる。

【県内生育状況】

外生菌根菌。夏から秋にかけて、シイ・カシ林やアカマツ混生林などにやや稀に発生する。

【特記事項】

標本：川越市2009年（TNS）、滑川町2015年（KPM）・2020年（SMNH）、さいたま市2017年、狭山市2020年（SMNH）

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
				○	○	○	○	

川越市、滑川町、狭山市、さいたま市、東松山市、（秩父市）

5015

イグチ科

(和名)

アシナガイグチ

(学名)

Boletellus elatus Nagas.

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 NT

2011 NT
1998 NT

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】

今回の現地調査では確認できなかったが、2017年に日高市で採取された標本が自然の博物館に保管されている。また、2019年の文献記録も確認できた。元々発生例が少なく、発生適地が土地造成などにより減少傾向にあると思われる。

【県内生育状況】

外生菌根菌。夏から秋にかけて、ブナ科の広葉樹林に子実体を形成する。

【特記事項】

標本：日高市2017年（SMNH）越生町、小川町、東松山市の記録は文献記録である。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
			○		○	○		

日高市、越生町、小川町、東松山市

5016 イグチ科

〔和名〕 **キフバナイグチ** (広義)
〔学名〕 *Boletellus floriformis* Imazeki

埼玉カテゴリー	2024 NT	2011 NT
	2005 NT	1998 NT
全国カテゴリー	2020 なし	

【評価所見】 今回の調査では5件の報告があり、新たな産地も含まれていた。元々発生例が少なく、発生適地が土地造成やナラ枯れにより減少傾向にある。

【県内生育状況】 外生菌根菌で、夏から秋にかけて、シイ・カシ・コナラなどの樹下の地上や根際の際皮上に発生する。

【特記事項】 標本：飯能市1987年、小川町2013年 (SMNH)、毛呂山町2010年、秩父市2010年 (TNS) この他に、国営武蔵丘陵森林公園で確認されたという文献記録がある。飯能市の発生地は土地造成に

より消滅したと思われる。今後分類学的な検討が必要である。前回調査では寄居町に分布するとされていたが根拠が確認できなかった。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○	○	○	○			

入間市、小川町、秩父市、皆野町、飯能市、日高市、毛呂山町、越生町、(寄居町)

5017 イグチ科

〔和名〕 **オオキノボリイグチ**
〔学名〕 *Boletellus mirabilis* (Murrill) Singer

埼玉カテゴリー	2024 DD	2011 DD
	2005 NT	1998 NT
全国カテゴリー	2020 なし	

【評価所見】 今回の現地調査では確認できなかったが、2018年に2件の写真記録があった。亜高山帯での調査が進めばさらに発見される可能性がある。

【県内生育状況】 夏から秋にかけて、亜高山帯の針葉樹の倒木や切り株上、またその付近の腐植土上に子実体を形成し、単生または少数束生する。

【特記事項】 標本：秩父市2010年 (SMNH)

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

秩父市

5018 イグチ科

〔和名〕 **トゲミノヒメイグチ**
〔学名〕 *Boletellus shichianus* (Teng & L. Ling) Teng

埼玉カテゴリー	2024 DD	2011 DD
	2005 VU	1998 VU
全国カテゴリー	2020 なし	

【評価所見】 今回の調査では確認できず、伝聞情報も得ることができなかった。自然遷移のほか、ナラ枯れにより生育環境が急激に悪化している可能性がある。

【県内生育状況】 外生菌根菌で、夏から秋にかけて、アカマツ、コナラなどの雑木林の地上に子実体を形成する。

【特記事項】 2004年の飯能市の文献記録が新たに確認できた。従来の調査では上尾市に分布するとされてきたが、根拠が不明であり、その後確認されていない。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
					○			

飯能市、(上尾市)

5019 イグチ科

〔和名〕 **オオダイアシベニイグチ**
〔学名〕 *Boletus odaiensis* Hongo

埼玉カテゴリー	2024 DD	2011 DD
	2005 NT	1998 NT
全国カテゴリー	2020 なし	

【評価所見】 今回の調査では確認できず、伝聞情報も得ることができなかった。生育地が限定されており、発生情報が少ない。亜高山帯での調査が進めば発見される可能性がある。

【県内生育状況】 外生菌根菌で、シラビソ・オオシラビソ、コメツガなどの針葉樹林の地上に子実体を形成する。

【特記事項】 これまでの調査では秩父市(十文字峠)の記録があるとされてきたが、根拠が不明である。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

(秩父市)

5020 イグチ科

〔和名〕 **ジャガイモタケ**
〔学名〕 *Heliogaster columellifer* (Kobayasi) Orihara & K. Iwase

埼玉カテゴリー	2024 VU	2011 VU
	2005 VU	1998 VU
全国カテゴリー	2020 なし	

【評価所見】 今回の調査では確認できなかった。平野部のモミが減少傾向にあるため発生量は少なく、土地造成による発生地の消滅が危惧される。また、地下生菌であるため発見が難しい。

【県内生育状況】 地下生菌で、秋から冬にかけてモミやヒマラヤスギなどの樹下の半地中から地上に子実体を形成する。

【特記事項】 標本：ふじみ野市1987年、川越市2010年 (SMNH) 飯能市、横瀬町の記録は文献情報である。前回調査では入間

市、秩父市に分布するとされていたが根拠が確認できなかった。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
					○	○		

ふじみ野市、川越市、飯能市、横瀬町、(入間市、秩父市)

5021

イグチ科

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 NT

2011 NT
1998 NT

全国カテゴリ

2020 なし

〔和名〕

ベニハナイグチ

〔学名〕

Suillus pictus (Peck) Kuntze

【評価所見】

今回の調査では確認できなかった。ゴヨウマツが県内に少ないため、発生環境はごく限られており、自然遷移により減少傾向にある可能性がある。

【県内生育状況】

外生菌根菌で、夏から秋にかけてゴヨウマツ類の樹下に子実体を形成する。

【特記事項】

標本：秩父市1984年、2010年（SMNH）

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

秩父市

5022

イグチ科

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 VU

2011 VU
1998 VU

全国カテゴリ

2020 なし

〔和名〕

ニガイグチ

〔学名〕

Tylophilus felleus (Bull.) P. Karst.

【評価所見】

今回の現地調査では確認できなかった。元々発生例が少ないが、近年はさらに減少しているようであり、広葉樹林や針葉樹林の環境悪化が減少要因として挙げられる。

【県内生育状況】

外生菌根菌で、夏から秋にかけてブナ科の広葉樹林や針葉樹林の地上に子実体を形成する。

【特記事項】

標本：長瀬町1983年（SMNH）小川町の記録は文献記録である。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○		○				

長瀬町、小川町

5023

イグチ科

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 VU

2011 VU
1998 VU

全国カテゴリ

2020 なし

〔和名〕

モエギアミアシイグチ

〔学名〕

Tylophilus nigerrimus (R. Heim) Hongo & M. Endo

【評価所見】

今回の調査では8件の報告があり、いずれも新産地である。広葉樹林の放置やナラ枯れによる発生環境の悪化や、土地造成による発生地破壊が危惧される。

【県内生育状況】

外生菌根菌で、夏から秋にかけてブナ科の広葉樹林の地上に子実体を形成し、時に群生する。県南西部の発生地多くでは継続して確認されているが、飯能市の産地は開発により消滅したものと思われる。

【特記事項】

標本：鳩山町2010年、日高市2020年（SMNH）

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
			○	○	○			

前回調査では寄居町に分布するとされていたが根拠が確認できなかった。
鳩山町、日高市、越生町、東松山市、飯能市、ときがわ町、小川町、（寄居町）

5024

イグチ科

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 VU

2011 VU
1998 VU

全国カテゴリ

2020 なし

〔和名〕

ブドウニガイグチ

〔学名〕

Tylophilus vinosobrunneus Hongo

【評価所見】

今回の調査では6件の報告があり、従来確認されていた北本市、比企丘陵だけでなく、県西部や秩父地域にも広く分布することが明らかになった。しかし、広葉樹林の放置やナラ枯れによる発生環境の急激な悪化が危惧される。

【県内生育状況】

外生菌根菌で、夏から秋にかけてブナ科広葉樹林の地上に子実体を形成する。ぼつぼつと毎年発生するが、量的には少ない。

【特記事項】

標本：飯能市1986年、小川町1992年、秩父市

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○	○	○	○		○	

飯能市、小川町、秩父市、北本市、横瀬町、越生町、東松山市、狭山市、小鹿野町、長瀬町、東松山市、滑川町、皆野町

5025

クリイロイグチ科

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 NT

2011 NT
1998 NT

全国カテゴリ

2020 なし

〔和名〕

アイゾメイグチ

〔学名〕

Gyroporus cyanescens (Bull.) Quél.

【評価所見】

今回の調査では確認できず、伝聞情報も得ることができなかった。元々発生が稀であり、1991年に所沢市で確認されて以降記録がない。広葉樹林やマツ・モミ林の自然遷移や放置による環境悪化が懸念される。

【県内生育状況】

外生菌根菌で、夏から秋にかけてブナ科の広葉樹林やときにマツやモミなどの針葉樹林の地上に子実体を形成する。

【特記事項】

標本：所沢市1991年（SMNH）

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
					○			

所沢市

5026

クリイロイグチ科

〔和名〕

クリイロイグチモドキ

〔学名〕

Gyroporus longicystidiatus Nagas. & Hongo

埼玉カテゴリー

2024 NT
2005 NT

2011 NT
1998 NT

全国カテゴリー

2020 なし

【評価所見】

今回の調査では6件の報告があり、いずれも新産地であった。県南西部の丘陵では継続して発生が確認されているが、群生せず、量的には少ない。広葉樹林の放置やナラ枯れによる環境悪化が懸念される。

【県内生育状況】

外生菌根菌で、夏から秋にかけてシイ・カシ林やコナラ林の地上に子実体を形成する。

【特記事項】

標本：皆野町2016年、川越市2010年（SMNH）小川町、秩父市、長瀬町、飯能市、日高市は文献情報である。また、

国営武蔵丘陵森林公園での文献記録も存在する。前回調査に記載されている鶴ヶ島市、桶川市、毛呂山町は根拠が確認できなかった。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
		○	○	○	○	○		

秩父市、皆野町、長瀬町、小川町、飯能市、日高市、川越市、（鶴ヶ島市、桶川市、毛呂山町）

5027

ヒダハタケ科

〔和名〕

ニワタケ

〔学名〕

Tapinella atrotomentosa (Batsch) Šutara

埼玉カテゴリー

2024 NT
2005 NT

2011 NT
1998 NT

全国カテゴリー

2020 なし

【評価所見】

今回の調査では2件の報告があったが、量的には少ないと思われる。元々発生例が少なく、マツ林の環境悪化や倒木の撤去により、子実体の発生が減少傾向にあると考えられる。

【県内生育状況】

夏から秋にかけて、針葉樹と広葉樹の混交林内で、マツの切り株上やその付近に発生する。

【特記事項】

標本：さいたま市（SMNH）越生町、東秩父村、日高市の記録は文献記録である。前回調査では小川町に分布

するとされていたが根拠が確認できなかった。類似種としてタケ類に発生するヤブニワタケがあり、肉眼での見分けは困難である。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
		○	○		○		○	

秩父市、東秩父村、日高市、越生町、さいたま市、（小川町）

5028

ヌメリイグチ科

〔和名〕

ウツロベニハナイグチ

〔学名〕

Boletinus asiaticus Singer

埼玉カテゴリー

2024 NT
2005 NT

2011 NT
1998 NT

全国カテゴリー

2020 なし

【評価所見】

今回の現地調査では確認できなかったが、2018年に採取された標本が自然の博物館に保管されている。県内ではカラマツ林が少ないため、生育環境が限定される。

【県内生育状況】

外生菌根菌で、夏から秋にかけてカラマツ林の地上に子実体を形成する。

【特記事項】

標本：秩父市1992年・2018年（SMNH）

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
○	○							

秩父市

5029

ヌメリイグチ科

〔和名〕

ゴヨウイグチ

〔学名〕

Suillus placidus (Bonord.) Singer

埼玉カテゴリー

2024 DD
2005 NT

2011 NT
1998 NT

全国カテゴリー

2020 なし

【評価所見】

今回の調査では確認できなかった。ゴヨウマツが県内に少ないため、発生環境はごく限られており、自然遷移により減少傾向にある可能性がある。

【県内生育状況】

外生菌根菌で、夏から秋にかけてゴヨウマツ類の樹下に子実体を形成する。

【特記事項】

これまでの調査では長瀬町で採取された記録があるとされてきたが、根拠を確認できなかった。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地

（長瀬町）

5030

タバコウロコタケ科

〔和名〕

ラッコタケ

〔学名〕

Cylindrosporus flavidus (Berk.) L.W. Zhou

埼玉カテゴリー

2024 DD
2005 VU

2011 DD
1998 VU

全国カテゴリー

2020 なし

【評価所見】

今回の調査では確認できず、伝聞情報も得ることができなかった。県内ではブナ林が少ないうえ、発生例が極めて少なく、確実な情報が不足している。

【県内生育状況】

白色腐朽菌で、晩秋にブナなどの広葉樹の枯れ木上に発生する。

【特記事項】

旧版植物誌に「秩父」の記録がある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
	○							

秩父市

5031

スッポンタケ科

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 NT

2011 NT
1998 NT

全国カテゴリ

2020 なし

〔和名〕

キヌガサタケ

〔学名〕

Dictyophora indusiata (Vent.) Desv.

【評価所見】

今回の調査では13件の報告と2件の写真記録があり、数年継続して確認されている。また、新たな産地も複数発見された（小川町、北本市、滑川町、毛呂山町）。しかし、確認されなかった産地もあり、放置された竹林が増えていることから、今後減少していく可能性がある。

【県内生育状況】

腐生菌で、梅雨と夏に竹林の地上に子実体を形成し、群生または散生する。

【特記事項】

標本：小鹿野町1996年、横瀬町1987年・1997年、秩父市1992年、長瀬町1987年、1988年、1993年（SMNH）、2008年（TNS）越

生町、川越市、嵐山町の記録は文献情報である。前回調査では、県西部で竹チップの散布により本種の子実体発生が確認されたとされている。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	○	○	○	○	○	○	

小鹿野町、横瀬町、秩父市、長瀬町、越生町、滑川町、小川町、北本市、毛呂山町、嵐山町

5032

スッポンタケ科

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 NT

2011 NT
1998 NT

全国カテゴリ

2020 なし

〔和名〕

カゴタケ

〔学名〕

Ileodictyon gracile Berk.

【評価所見】

今回の調査では伊奈町、小川町、飯能市、東秩父村から各1件の報告があった。いずれも新たな産地であり、県内に比較的広く分布することが明らかになってきたが、これまで確認されてきた秩父地域では確認されなかった。発生に適した条件が限定的である。

【県内生育状況】

腐生菌。夏から秋にかけて広葉樹林や針葉樹林の地上に子実体を形成する。数時間で子実体がしばむため確認が難しい。

【特記事項】

標本：小鹿野町1991年、秩父市2010年（SMNH）、東松山市（IBM）川越市、越生町、飯能市の記録は文献情報である。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○	○		○	○	○	

小鹿野町、秩父市、東松山市、越生町、伊奈町、小川町、川越市、飯能市

5033

スッポンタケ科

埼玉カテゴリ

2024 DD
2005 VU

2011 VU
1998 VU

全国カテゴリ

2020 なし

〔和名〕

ツマミタケ

〔学名〕

Lysurus mokusin f. *sinensis* (Lloyd) Kobayasi

【評価所見】

今回の現地調査では確認できなかったが、2019年の川越市における記録が確認できた。以前はツノツマミタケとして記載されていたが同種とされた。いずれも県内では発生例が極めて少ない。

【県内生育状況】

腐生菌。夏に庭園や路傍、林内地上に発生する。

【特記事項】

川越市の記録は文献情報である。前回調査では、さいたま市でウッドチップの散布により本種の子実体発生が

確認されたとされているが、根拠が確認できなかった。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○					○		

川越市、（さいたま市）

5034

スッポンタケ科

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 VU

2011 VU
1998 VU

全国カテゴリ

2020 なし

〔和名〕

キイロスッポンタケ

〔学名〕

Phallus costatus (Penz.) Lloyd

【評価所見】

今回の調査では確認できなかった。近年記録がなく、生育状況は不明であり、広葉樹林の環境変化が懸念される。腐朽材に発生するため発見が難しい。

【県内生育状況】

腐生菌で、梅雨と夏に林内の腐朽材に子実体を形成する。

【特記事項】

標本：秩父市1987年・1988年（SMNH）旧版植物誌では両神山にも産するとされている。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○							

秩父市、小鹿野町

5035

キクラゲ科

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 VU

2011 VU
1998 VU

全国カテゴリ

2020 なし

〔和名〕

ムカシオオミダレタケ

〔学名〕

Elmerina hispida (Imazeki) Y.C. Dai & L.W. Zhou

【評価所見】

今回の調査では確認できなかった。元々発生例が少なく、生育環境が限定的である。県内のブナ林の環境悪化が危惧される。

【県内生育状況】

腐生菌で、ブナやイタヤカエデの枯木に子実体を形成する。

【特記事項】

標本：秩父市1985年（SMNH）1984年、2011年、2012年の文献記録がある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							

秩父市

5036 ツガサルノコシカケ科

(和名) ツガマイタケ

(学名) *Osteina obducta* (Berk.) Donk埼玉カテゴリー 2024 VU 2011 VU
2005 VU 1998 VU

全国カテゴリー 2020 DD

【評価所見】 今回の調査では確認できなかった。元々発生例が少なく、生育環境が限定的である。亜高山の針葉樹林での調査が進めば発見される可能性がある。

【県内生育状況】 褐色腐朽菌で、夏から秋にかけてコメツガやカラマツなどの針葉樹の枯木上から発生する。

【特記事項】 標本：秩父市2010年（SMNH）

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

秩父市

5037 ニンギョウタケ科

(和名) アオロウジ

(学名) *Albatrellus caeruleoporus* (Peck) Pouzar埼玉カテゴリー 2024 NT 2011 NT
2005 NT 1998 NT

全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】 今回の調査では2件の報告があり、飯能市は新たな産地であるが、開発により消滅した可能性がある。前回調査で確認できなかった滑川町で今回再び確認できたが、もともと発生量が少なく、マツ枯れ等により生育環境が悪化し、減少傾向にあるものと思われる。

【県内生育状況】 秋から晩秋にかけて、マツなどの針葉樹林の地上に子実体を形成する。

【特記事項】 標本：滑川町2022年（SMNH）飯能市、熊谷市、

寄居町の記録は文献情報である。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
			○	○	○	○		

滑川町、飯能市、熊谷市、寄居町

5038 ニンギョウタケ科

(和名) ニンギョウタケモドキ

(学名) *Albatrellus ovinus* (Schaeff.) Kotl. & Pouzar埼玉カテゴリー 2024 NT 2011 NT
2005 NT 1998 NT

全国カテゴリー 2020 NT

【評価所見】 今回の調査では新たな産地から1件の報告があった。もともと発生量が少なく、マツ枯れ等により生育環境が悪化し、減少傾向にあるものと思われるが、時期が遅く、また落葉に隠れて発見しづらいため見逃されている可能性もある。

【県内生育状況】 晩秋にマツやモミ、トウヒなどの針葉樹林の地上に子実体を形成する。

【特記事項】 標本：滑川町2022年（SMNH）秩父市、川越市

の記録は文献情報である。これまでの調査ではふじみ野市で採取された記録があるとされてきたが、根拠を確認できなかった。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○		○				

滑川町、秩父市、川越市、（ふじみ野市）

5039 ベニタケ科

(和名) ルリハツタケ

(学名) *Lactarius indigo* (Schwein.) Fr.埼玉カテゴリー 2024 VU 2011 VU
2005 VU 1998 VU

全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】 今回の調査では6件の報告があり、新たな産地（滑川町）も発見された。継続して発生が確認された産地もあり、数年間隔で多数発生することがあるようである。

【県内生育状況】 外生菌根菌で、夏から秋にかけてマツやコナラの混交林内の地上に子実体を形成する。

【特記事項】 標本：皆野町1983年・1996年、小鹿野町1991年、秩父市1996年・2001年・2017年、横瀬町2020年（SMNH）川越市、越生町、長瀬町の記録は文献情報である。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	○	○	○		○		

皆野町、小鹿野町、秩父市、横瀬町、越生町、滑川町、川越市、長瀬町

5040 マツバハリタケ科

(和名) クロカワ

(学名) *Boletopsis grisea* (Peck) Bondartsev & Singer埼玉カテゴリー 2024 NT 2011 NT
2005 NT 1998 NT

全国カテゴリー 2020 DD

【評価所見】 1981年に寄居町で、1986年にふじみ野市で確認されて以降長らく記録がなかったが、2022年に確認され、標本が自然の博物館に収められている。県内ではもともと発生例が少ないうえに、マツ・モミ林の環境悪化のほか、食用菌のため採取による減少が危惧される。

【県内生育状況】 秋にマツやモミ林の地上に子実体を形成し、散生あるいは群生する。

【特記事項】 標本：ふじみ野市1986年、秩父市2022年（SMNH）

寄居町の記録は文献記録である。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○					○		

ふじみ野市、秩父市、寄居町

5041

マツバハリタケ科

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 NT

2011 NT
1998 NT

全国カテゴリ

2020 なし

〔和名〕

コウタケ（広義）

〔学名〕

Sarcodon aspratus (Berk.) S. Ito

【評価所見】

今回の調査では2件の報告があったが、うち1件は伝聞情報である。新たな産地も確認されたが、秩父地域では近年報告がない。広葉樹林の放置による環境悪化に加え、食用菌のため採取による減少が危惧される。

【県内生育状況】

秋に広葉樹林の地上に子実体を形成する。

【特記事項】

標本：秩父市1981年（TNS）・1994年（SMNH）、皆野町1985年、日高市2016年（SMNH）飯能市、越生町の記録は文献情報である。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○	○	○		○			

秩父市、皆野町、日高市、越生町、飯能市

5042

ツチダンゴ科

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 VU

2011 VU
1998 VU

全国カテゴリ

2020 DD

〔和名〕

コウボウフデ

〔学名〕

Pseudotulostoma japonicum (Kawam. ex Otani) I. Asai, H. Sato & Nara

【評価所見】

これまで秩父地域でのみ生育が確認されていたが、今回の調査で新たに飯能市で発見された。しかし、この生育地は開発により消滅した可能性が高い。

【県内生育状況】

秋にコナラなどの広葉樹林の地上に子実体を形成し、単生または群生する。発生する面積は狭い。

【特記事項】

標本：長瀬町1988年・2004年・2014年、小鹿野町2004年、飯能市2020年（SMNH）

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○		○					

長瀬町、小鹿野町、飯能市

5043

フクロシトネタケ科

埼玉カテゴリ

2024 DD
2005 VU

2011 DD
1998 VU

全国カテゴリ

2020 なし

〔和名〕

クルミタケ

〔学名〕

Hydnotrya tulasnei (Berk.) Berk. & Broome

【評価所見】

今回の調査では北本市から1件の報告があった。平野部では土地造成による発生地が消滅が危惧される。また、地下生菌であるため発見が難しい。

【県内生育状況】

外生菌根性の地下生菌で、春から夏に落葉樹林の地中に子実体を形成する。

【特記事項】

清水大典氏が十文字峠で発見したのが日本での最初の発見であったが、その後秩父地域では発見されていない。前回調査では入間市に分布するとされていたが根拠が確

【県内分布状況】

認できなかった。地下生菌識別図鑑（2016）によると、埼玉県産のものは別種*Hydnotrya* sp.であると記載されており、今後検討を要する。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
							○	

秩父市、北本市、（入間市）

5044

ビョウタケ科

埼玉カテゴリ

2024 DD
2005 EN

2011 EN
1998 EN

全国カテゴリ

2020 なし

〔和名〕

クチキトサカタケ

〔学名〕

Ascoclavulina sakaii Otani

【評価所見】

今回の調査では確認できなかった。元々発生例が少なく、確実な記録が確認できなかった。県内にブナ林が少ないため発生は限定的と思われる。

【県内生育状況】

腐生菌で、夏から秋にかけてブナの倒木上に発生する。

【特記事項】

前回調査では秩父市に分布するとされたが、根拠を確認できなかった。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

（秩父市）

5045

ベニチャワンタケ科

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 NT

2011 NT
1998 NT

全国カテゴリ

2020 なし

〔和名〕

ミミブサタケ

〔学名〕

Wynnea gigantea Berk. & M.A. Curtis

【評価所見】

今回の調査では2件の報告があった。前回調査では見逃されていた記録があり、秩父地域以外にも産地が発見されているが、これは調査の進展に伴うものと考えられる。広葉樹林の環境悪化による減少が危惧される。

【県内生育状況】

夏から秋にかけて林内の地上に発生する。子実体は地中の菌核から生じ、10～20個の子囊盤が形成される。

【特記事項】

標本：秩父市1987年、飯能市1987年、皆野町2000年・2016年、日高市2021年、熊谷市2009年（SMNH）

【県内分布状況】

旧版植物誌では両神山にも産するとされている。かつて川越市、越生町で確認とされていたが根拠が確認できなかった。ナラタケとの関連が指摘されている（Xu et al., 2019）。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	○	○		○	○		

秩父市、飯能市、皆野町、日高市、熊谷市、小鹿野町、（川越市、越生町）

5046 バッカクキン科

〔和名〕フトクビクチキムシタケ

〔学名〕*Elaphocordiceps subsessilis* (Petch) G.H.Sung & Spatafora

埼玉カテゴリー

2024 DD
2005 CR2011 DD
1998 CR

全国カテゴリー

2020 NT

【評価所見】1979年に両神山薄川で清水大典氏が発見して以降記録がなく、情報が不足している。シカの摂食などによる林床の乾燥化や気候変動などによる発生環境の減少が危惧される。

【県内生育状況】朽木生型の冬虫夏草で、ゴミムシダマシ科などの甲虫の幼虫を宿主とする。空中湿度の高い沢沿いなどの朽ちた倒木から発生する。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							

小鹿野町

5047 バッカクキン科

〔和名〕ミドリクチキムシタケ

〔学名〕*Metarhizium atrovirens* (Kobayasi & Shimizu) Kepler, S.A. Rehner & Humber

埼玉カテゴリー

2024 DD
2005 CR2011 DD
1998 CR

全国カテゴリー

2020 VU

【評価所見】1951年に両神山薄川で清水大典氏が発見して以降県内での記録がなく、情報が不足している。シカの摂食などによる林床の乾燥化や気候変動などによる発生環境の減少が危惧される。

【県内生育状況】朽木生型の冬虫夏草で、ゴミムシダマシ科やホソクシヒゲムシ科の幼虫を宿主とする。8～9月頃、湿潤な広葉樹林内の固い朽木から発生する。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							

小鹿野町

5048 ノムシタケ科

〔和名〕クサギムシタケ

〔学名〕*Cordyceps hepialidicola* Kobayasi & Shimizu

埼玉カテゴリー

2024 DD
2005 CR2011 DD
1998 CR

全国カテゴリー

2020 CE

【評価所見】1950年に両神山麓で清水大典氏が発見して以降記録がなく、情報が不足している。シカの摂食などによる林床の乾燥化や気候変動などによる発生環境の減少が危惧される。本県以外の記録は全て西日本や九州地方のものであり、北限に近いと思われる。

【県内生育状況】樹孔生型の冬虫夏草で、コウモリガ類の幼虫を宿主とする。7～9月頃、林内の沢沿いのクサギなどの生木の根元にある樹孔やイタダリの根茎の穿孔から発生する。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							

小鹿野町

5049 ノムシタケ科

〔和名〕コゴメカマキリムシタケ

〔学名〕*Cordyceps mantidicola* Kobayasi & Shimizu

埼玉カテゴリー

2024 DD
2005 CR2011 DD
1998 CR

全国カテゴリー

2020 CE

【評価所見】1951年に両神山薄川で清水大典氏が発見して以降記録がなく、情報が不足している。シカの摂食などによる林床の乾燥化や気候変動などによる発生環境の減少が危惧される。

【県内生育状況】気生型の冬虫夏草で、カマキリ目の卵囊を宿主とする。7～8月頃にフサザクラ、アブラチャンなどの湿生林内の、地上に落ちた古い卵囊から生じる。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							

小鹿野町

5050 ノムシタケ科

〔和名〕チチブクチキムシタケ

〔学名〕*Cordyceps nanatakiensis* Kobayasi & Shimizu

埼玉カテゴリー

2024 DD
2005 CR2011 DD
1998 CR

全国カテゴリー

2020 DD

【評価所見】1947年に両神山七滝沢で清水大典氏が発見して以降記録がなく、情報が不足している。シカの摂食などによる林床の乾燥化や気候変動などによる発生環境の減少が危惧される。

【県内生育状況】朽木生型の冬虫夏草で、ゴミムシダマシ科の幼虫を宿主とする。発見例が非常に少なく、生育状況については不明点が多い。

【特記事項】肉質が全体的に半透明となる点が特徴的である。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							

小鹿野町

5051

ノムシタケ科

埼玉カテゴリ

2024 DD
2005 CR

2011 DD
1998 CR

〔和名〕

シロヒメサナギタケ

〔学名〕

Cordyceps pallidiolivacea Kobayasi & Shimizu

全国カテゴリ

2020 DD

【評価所見】

1948年に両神山の湿生林で清水大典氏が発見して以降記録がなく、情報が不足している。シカの摂食などによる林床の乾燥化や気候変動などによる発生環境の減少が危惧される。

【県内生育状況】

地生型あるいは普及の進んだ倒木上にみられる冬虫夏草で、ミノガ科を宿主とする。8～9月に、湿生林の林床で、宿主の蛹から発生する。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							

小鹿野町

5052

オフィオコルディセプス科

埼玉カテゴリ

2024 DD
2005 なし

2011 なし
1998 なし

〔和名〕

タンポヤンマタケ

〔学名〕

Ophiocordyceps odonatae (Kobayasi) G.H. Sung, J.M. Sung, Hywel-Jones & Spatafora

全国カテゴリ

2020 VU

【評価所見】

ヤンマタケの有性世代である。2017年に県内初記録が報告された。無性世代は度々発見されるが、有性世代の発生条件は稀であり、まだ情報が不足している。

【県内生育状況】

気生型の冬虫夏草で、トンボ類の成虫を宿主とし、体節上にタンポ型の子実体を生じる。秋に、空中湿度の高い沢沿いの樹上に生育していた。

【特記事項】

標本：秩父市2017年（SMNH）国内では他に茨城県、山梨県、京都府で報告されている。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							

秩父市

5053

オフィオコルディセプス科

埼玉カテゴリ

2024 DD
2005 VU

2011 DD
1998 VU

〔和名〕

クモタケ

〔学名〕

Purpureocillium atypicola (Yasuda) Spatafora, Hywel-Jones & Luangsa-ard

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】

今回の調査では4件の報告があり、新たな産地も含まれていた（小川町、北本市、東松山市）。県内での発生例が比較的稀であり、宿主の好むがけ地などの環境が少なくなっている。

【県内生育状況】

地生型または気生型の冬虫夏草で、トタテグモ類を宿主とする。夏に、地生型では地中にある宿主の巣から発生し、気生型の場合は葉裏や枝の上に発生する。

【特記事項】

標本：滑川町1994年、秩父市2017年（SMNH）さいたま市の記録は文献情報である。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○	○	○			○	

小川町、北本市、さいたま市、東松山市、滑川町、秩父市

5054

オフィオコルディセプス科

埼玉カテゴリ

2024 DD
2005 CR

2011 DD
1998 CR

〔和名〕

スズキセミタケ

〔学名〕

Purpureocillium takamizusanense (Kobayasi) S. Ban, Azuma & Hiroki Sato

全国カテゴリ

2020 CE

【評価所見】

1954年に両神山で清水大典氏が発見して以降記録がなく、情報が不足している。シカの摂食などによる林床の乾燥化や気候変動などによる発生環境の減少が危惧される。

【県内生育状況】

地生型の冬虫夏草で、エゾゼミまたはミンミンゼミの成虫を宿主とする。7～8月に、空中湿度が高く半日陰になった林内地上の地面に転がったり、半分埋まったりしている宿主から発生する。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							

小鹿野町